

・その他の活動

(1) 民間外交交流：公益目的事業

デニス・ブレア米国笹川平和財団会長との懇談会

4月15日、米国太平洋軍司令官や国家情報長官を歴任した、デニス・ブレア米国笹川平和財団 会長との懇談会を開催、本会からは長谷川閑史 代表幹事、志賀俊之 副代表幹事を始め14名が出席した。

長谷川代表幹事による歓迎挨拶、ブレア会長による中国の台頭に対する日米の対応に関する問題提起の後、南シナ海を巡る動き、知的財産権侵害やサイバー攻撃への対応、アジアインフラ投資銀行への関与、米大統領選挙の見通しなどについて、多岐にわたる意見交換を行った。

ヘレン・クラーク国連開発計画総裁との懇談会

11月24日、ヘレン・クラーク 国連開発計画（UNDP：United Nations Development Programme）総裁（元ニュージーランド首相）の来日を捉え、懇談会を開催した。本会からは小林いずみ 副代表幹事および御立尚資 副代表幹事が出席した。

小林副代表幹事による歓迎挨拶の後、クラーク総裁より、国連創設70周年を機に策定された「持続可能な開発目標」推進の意義や、日本とUNDPとの連携に対する期待等について、問題提起があった。これを受け、国際機関と日本の民間セクターとの効果的な連携の可能性等を巡り、意見交換を行った。

(2) その他の会合：公益目的事業

「株式会社 産業革新機構（INCJ）」事業説明会 事業投資に関わる情報提供実施

本会はINCJからの協力依頼を受け、1月28日、INCJの今後の投資方針および今後の取り組むべき活動の方向性について説明会を開催した。

冒頭、志賀俊之 INCJ取締役会長が「産業革新機構の果たすべき役割」と題して講演し、続いて勝又幹英 INCJ取締役社長から「産業革新機構の今後の活動方針」について説明があった。

その後、豊田哲朗 INCJ投資事業グループ 専務執行役員と土田誠行 INCJ戦略投資グループ 専務執行役員より、投資グループの投資方針および投資事例紹介について、

詳細説明があり、参加した会員、企業担当者に対して事業投資に関わる情報を提供した。

わが国の会計検査に関する特別講演会 決算検査報告の説明と IT 関連の検査事例について講演

2015年3月30日に岡村肇 会計検査院事務総長官房総括審議官、および土肥亮一 会計検査院事務総長官房審議官（第5局担当）を来賓として、「会計検査院の指摘と提言～平成26年度決算検査報告」と題した懇談会を開催した。開会は横尾敬介専務理事、司会は行政・制度改革委員会の片野坂真哉委員長が行った。会計検査をテーマとした講演会は本年度で6回目となる。今回は、平成26年度の決算検査報告の特徴およびIT関連の検査事例について講演が行われた。出席者は35名（代理出席含む）で、講演後は出席者との間で質疑応答・意見交換を行った。

（3）経済三団体としての連携活動：

経済三団体共催新年祝賀パーティ（法人事業）

年初恒例の「経済三団体共催新年祝賀パーティ」は、本年度は本会が幹事となり、1月5日帝国ホテルで開催した。小林代表幹事が幹事団体として冒頭に挨拶し、われわれ経営者は未来に向けてリスクを取って果敢に挑戦していく「覚悟と実行」のため、心の内なる岩盤を打破していくことが必要であると述べた。

当日は、各団体所属会員をはじめ政界、官界、各国在日公館等の方々を招き、総勢1,800名が出席した。

経済団体主催国公賓関係（公益目的事業）

本会ならびに日本経済団体連合会、日本商工会議所、日本貿易会は、外務省からの依頼に基づき、外国からの賓客の来日に際し、歓迎昼食会を共催している。

6月4日には、ホテルニューオータニにおいて、日本商工会議所が幹事団体となり、ベニグノ・アキノ三世 フィリピン共和国 大統領をお迎えした。会合には、本会を代表して出席した菅田史朗 副代表幹事をはじめ日本側99名、フィリピン側101名の計200名が参加した。幹事団体を代表して三村明夫 日本商工会議所 会頭が歓迎挨拶を行い、両国間の一層の緊密化や相互理解を進めていくことの重要性を訴えるとともに、2015年11月に開催されるAPECにおける議長国フィリピンの役割への期待を表明した。これを受け、アキノ大統領は、経済成長のためには製造業を発展させることが重要で

あるとの認識に立ち、技術者育成の強化に取り組んだ結果、オフィス機器や医療機器等の分野で競争力を持つようになったことを紹介した。その上で、フィリピン市場の持つ潜在力を活かすべく、日本企業の積極的な進出に期待を表明した。

12月18日には、帝国ホテルにおいて、日本商工会議所が幹事団体となり、マルコム・ターンブル オーストラリア連邦 首相をお迎えした。ターンブル首相は、9月の首相就任後、初めての東アジアへの外遊先として日本を選定した。会合には、本会を代表して出席した朝田照男 副代表幹事をはじめ日本側156名、オーストラリア側32名の計188名が参加した。幹事団体を代表して三村明夫 日本商工会議所 会頭が歓迎挨拶を行い、ターンブル首相が重点を置くイノベーションや新産業の創出は、日本も注力しているテーマであり、今後、幅広い分野で両国間の連携や協力が進むことへの期待を表明した。これを受け、ターンブル首相は、日本企業が常にイノベーションを推進し発展・進化を遂げてきたことを称賛するとともに、両国経済関係のさらなる連携強化に意欲を示した。